

令和3年1月28日

【清水港港湾計画改訂(案)に関するパブリックコメント】

静岡経済同友会静岡協議会
代表幹事 平尾 清

1. 静岡県中部の経済界で組織する「静岡経済同友会静岡協議会」が一昨年8月に川勝静岡県知事に提言した折戸湾再開発に関する自治会や地権者による民間の総意を、十二分に汲み取っていただき、折戸地区の整備を組み入れた本清水港港湾計画案を策定されたことをまづもって感謝申し上げます。

2. 折戸湾をぐるりと周回できる緑地を用いた緑道の新設や、防波堤を活用した人の往来を可能にする海上遊歩道の新設などは、長年に渡り地域の住民の皆様が切望して来た施設であります。これらを市民や来訪者が心から安心して楽しめる憩いの空間とするためには、普段は展望施設として活用できる命山の配置や公共の休憩所やトイレ等の設置が欠かせません。民間による陸上エリアの整備計画の策定時において、これらの公的施設整備にはぜひ行政によるサポートをご配慮いただきたくお願いいたします。

3. 水際線の整備は、陸上開発だけではなく水面開発にも可能性を広げるもので、現行のマリーナの拡張やスーパーヨット受入れ機能の新設等が計画されています。さらに折戸地区をマリンスポーツ、マリンレジャーのメッカ、リゾートの拠点として国内外からの集客を図るためには、折戸湾の水質浄化が欠かせません。是非とも環境整備の観点から専門家を含めた関係者間の協議の場を設置いただくようお願いいたします。

4. また駒越・折戸エリアの交流厚生用地への用途変更も計画に組み込まれ、再開発の地ならしが進んだことも今後の再開発に拍車がかかります。一方、該当エリアで稼働している造船業や生活者も存在することから、これらの方の移転先、代替地確保については行政がリーダーシップを発揮して取り組んでいただくことを期待いたします。

5. スーパーヨットの拠点港化は、コロナ禍の中で一時的に利用が停滞しているものの国際旅客船拠点形成港湾に指定を受け整備をすすめてきた大型客船による外部からの海上アクセス強化、ビジターの受け入れ手段となります。これらのビジターの受け入れ先として県有地の魅力ある土地利用が大いに期待される所です。開発に当たっては当地区全体のバランスを取ることが大事であり、官民の打合せを行うことが必要です。この点へのご配慮もぜひよろしくお願いいたします。

以上